



<インド・ニューデリーにおけるヒートポンプワークショップ>

1. 実施までの経緯

省エネルギーセンターは2006年から日印エネルギー対話の枠組みのもとで、政府機関である電力省・省エネルギー局（BEE）及び石油天然ガス省傘下の石油節約調査協会（PCRA）に対して人材育成事業としてエネルギー管理制度構築及び省エネルギー技術移転などの支援を行ってきた。その一環として今回は電力削減や環境に優しい技術として日本で活用されているヒートポンプ技術のインド市場への導入促進を図ることを目的とした。

本ワークショップはヒートポンプ蓄熱センター（HPTCJ）及びインド・エネルギー資源研究所（TERI）の協力とBEEの後援を得て開催された。

2. ワークショップの概要

本ワークショップは、インドにおける人材育成事業として2015年2月4日にニューデリーにて開催され、政府関係者、PCRAや繊維研究協会などの省エネ推進機関、空調メーカーなどの私企業から約60名の参加があった。

電力省・BEE 局長の挨拶や日本大使館からのメッセージの披露、技術セッションでは発表者から興味ある技術情報や事例紹介があり最後に議長総括がなされ、その後の活発な質疑応答を通じてヒートポンプへの関心の高さがうかがえた。

本ワークショップのテーマは「インドにおけるヒートポンプの普及促進」であり、ヒートポンプの省エネへの効果、ヒートポンプ技術及びその応用事例など、下記の発表があった。

- 1) ヒートポンプに係る省エネポテンシャル（ECCJ）
- 2) ヒートポンプ技術の適用事例（HPTCJ）
- 3) ヒートポンプ技術の産業及びビルへの導入事例（TERI、IGES:地球環境戦略研究機関）
- 4) 高温・高効率ヒートポンプの応用事例（東芝キャリアー）
- 5) ヒートポンプ技術の将来展開（ダイキン・インド）

3. 今後の取組

本ワークショップを通じてヒートポンプ技術に対するインド側の期待が大きいたことが分かり、今後、高効率な日本製ヒートポンプ普及が期待される。しかしながら、普及のためには製品のコストダウンが必要であることが指摘され、特に設備費用が高価な場合投資回収リスクもあり、何らかの金融支援制度等が必要であると思われる。



<p>開会挨拶 ECCJ・祖川常務</p>	<p>来賓挨拶 BEE/DG・Dr.A.Mathur</p>
<p>参加者全景</p>	<p>議長総括 (PCRA/ED・Mr.A.Bakre)</p>



乳製品工場（Verka Diary） @Chandigarh
（前川製作所製 ヒートポンプシステム導入事例）

	
<p>Verka Diary @Chandigarh</p>	<p>ヒートポンプシステム</p>
	
<p>配管およびストレージタンク</p>	<p>乳製品の配送</p>
	
<p>牛乳の殺菌工程</p>	<p>工場長執務室にて</p>